京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十二年 紀元二千五百六十九年

本紙定價 一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢

月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)

廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢

發行兼編輯人 高木久馬太

印刷人 松久神一郞

京城西署西小門通(電話六六三)

發行所 京城新報社

甘茶澁茶

▲眞善美と味噌

心理的情性は夾れ味噌の如き歟、豆は以て眞に比すべく、麹は以て善に當ふべく、鹽は以て美に當つべし、豆麹鹽の三者は克に角味噌を造るも、味噌の良否は豆麹鹽の性質にも由るべく、豆麹鹽の分量にも由るべく、又た豆糀鹽の配合にも由るべし、豆糀鹽の配合分量性質の適合したるもの、始めて味噌の上品を成さん、眞と善と美との三者の融合分量性質にして其の宜しきに適はゞ心的情性の上品は造り得られん哉。而かも心的情性の上々にして精なるものは猶ほ「時」の力の味噌臭からざるを成すが如く、タイムの力に俟たざるべからざるか。

▲醜塵寰に盈つ

日糖事件の磯村某、久しく桎梏の裏に縲絏に繋がれ、却て肥滿して保釋せられて還る、酒々語て曰く、獄裡何の苦しみかある。精神を修養する、場此より宜しきは無し、禪定始めて得きと。又た曰く、予酒を嗜み、恒に用ひて陶然として酊ふ、酊ふて陶然たるの機、念毎に會社の事に及び、終に屢々社の金を掴み出して數氏に賄ひき。酒は實に予をして罪此に至らしめしなりと。某や元是れ堂々たる實業家の一個、此の暴言を吐て又た愧ぢず、嗟吁頑者何ぞ議員會社員吏尹の醜態を耳にする事の頻りなる。金權は方に樓に玄洋に掉し去らんか。又たリップパンウヰンクルの百年睡夢の銘酒を仰んか、噫。

▲挨拶は漆喰の如し

石垣の石のみを用て築かるゝものは甚だ危し。必ずや、セメントの石と石とを結合する無かるべからず。然りセメントは石と石とを結合し、セメントの力は克く石垣の堅固を保ち得、然も其の力の克く其の堅固を保つが故に、多々益々辨ずとなすは非なり。石垣の石は是れ主にしてセメントは是れ資なるを以てなり。人の相語るも猶ほ此の如き歟。所用を語るに管々しく挨拶の類を饒舌るは、猶ほセメントの必要の故を以てして過多に之を用ゆるが如し。乍りながら唯所用を辨ずるにのみ偏せば磊々たる石塊を見るが如く、趣味なきのみか危からんなり。兩々其の量を配する猶は築造の石垣の如からんを要す唯其の石質の如何に應じて其の漆喰の種類を撰ぶの必要あるに心せざるべからず。

雜報

上世に於ける日韓の關係(下)

文學士 谷井濟一

神功皇后の新羅征伐は決して皇后の發意に非ず歷代の宿題たりしなり其動機は蓋垂仁の御世任那の請に應じて鎭將を韓南に遣したる時に起れりと言ひつべし。元來我國に於ては新羅を目するに財寶國を以てし其金銀に富めるを信せし事は恰キリスト紀元第十五世紀の頃歐洲に於て航海熱盛に東方に金銀珠玉に富める國あるを夢想せるにも増すとも劣らざる有樣なりき。神功の征新羅は大和朝廷の威力既に國内を治平にし進んで大陸の勢力に對抗して韓南保護の實力を有するに至りし結果にして此の一擧によりて併して韓南の物質的文明を移植せんと企てしものなり、而して韓南保護と文明輸入とは二者共に成功するに至りしなり。神功征新羅の年代は恐らく皇紀一千〇二十四年甲子夏四月の頃なりしが如し。皇后新羅より班師の後三國中事大思想の最も著しき百濟は風を望んで其年七月貢を我に納んとせしが果さず一年を閲して我に朝貢を遂げたり。爾來韓南の地は我保護國として大和朝廷の宗主權の下に服し我よりは日本府を任那に置き大和朝廷より宰を遣し以て韓南の事を處理せしめたり、今日に於ては日本府の位置不明なれども初めは今の慶尚南道金海地方に在りて後には成安の方面に移れる事も有りしが如し日本府の宰は本國の命を受けて行政上に干渉せしのみならず時には裁判權をも行使せり。神功征新羅の一擧によりて大和朝廷の武威頓に揚り三國中新羅及び百濟は我に朝貢するに至りしも頑強なる高句麗は貢を我に輸せざりき高句麗は獨我に對して傲慢なりしにあらず大陸の勢力に對しても猥に屈せざりしなり。韓南の地大和朝廷の保護の下に立つに及んで大陸の文明は半島を通じて滔々として我に移入し來れり而して其影響の著しきものは形而上に於ては漢文字及漢文學の輸入盛となり儒教の思想我固有の思想に加味するに至りし事なりとす、然れども我國民の思想上に一大革新を與ふるに至りしは蓋佛教の傳來にあり而して此の二者共に百濟よりして傳へられたるものなり。形而下に於ては百般の工藝技術枚擧に遑あらず。斯くの如くにして漸次に日韓の交通は頻繁となりしと雖、當時に於ては海を越ねて韓土に通交するは決して容易の業といふを得ざるなりしなるべし、況や大和朝廷に於ても大臣大連の間に勢力の爭ありて半島に在任の宰に對する監督を怠る事あり、此間に於て韓土在勤の宰は必ずしも其人を得たりといふを得ず時に或は時勢に遲れたる裁判方法を韓人に適應し以て韓人の不平を買ひ或は甚しきは朝廷の大官にして賄賂を納れて韓南に對し頗不穩當の所置を育てする者さへ出づるに至る、斯の如くにして半島の人心漸く乖離せんとし新羅之に乘じて任那の地を併呑す是れ欽明天皇の御世の事にして大和朝廷は當時内財政の窮乏によりて力を外に致すを得ず列聖任那興復に意ありしと雖も充分なる結果を得ざりき、任那の滅亡は韓南に於ける我勢力の一頓挫にして神功征新羅以來約二百年なりとす。一方に於て大陸に於ける隋の一統は我國の自覺心を喚起し遂に推古天皇の御世に於ける厩戸皇子の諸制刷新となりたり、次で唐の世となり我は益力を内政に用ゐ大化の改新を斷行し未だ外を顧るの餘力に乏し此の機に乘じ新羅は唐軍を引いて之と聯合して以て百濟を攻め我援軍は唐の水軍と白江口に戰ひて利あらず、錦江々畔をして空しく百濟塔の占有に委するの止むなきに至らしめたり是れ天智制を稱するの時にして神功征新羅以後恰三百年なりとす。爾來新羅は國力益盛に唐の鎭將百濟の故地を去るや直に之れを併せ、又高句麗の地を呑み初めて半島統一の業をなせり是に於て我の韓土に對する關係は遂に前日の如くなる能はざるに至れり之を要するに素戔嗚尊の下に出雲地方は已に業に有史以前に於て新羅と一域の關係を有し神功皇后によりて新羅百濟任那は我を宗主國と仰ぐに至りたり而して後韓南の地は一旦我の手より離れしと雖更に千二百餘年を隔てゝ明治聖天皇の下に半島の全部は我保護國となれり、實に日韓關係の歷史は歲月を重ねて愈其地的範圍を擴大し行くの觀あり(終

和歌募集

勅題「新年雪」

選者 九皐館去留

何首にても隨意、用紙用箋類も又御隨意の事、締切期限十二月二十日、發表は四十三年一月元旦の本紙上を以てす、同好の士奮て投詠せられんことを希ふ

十一月廿日

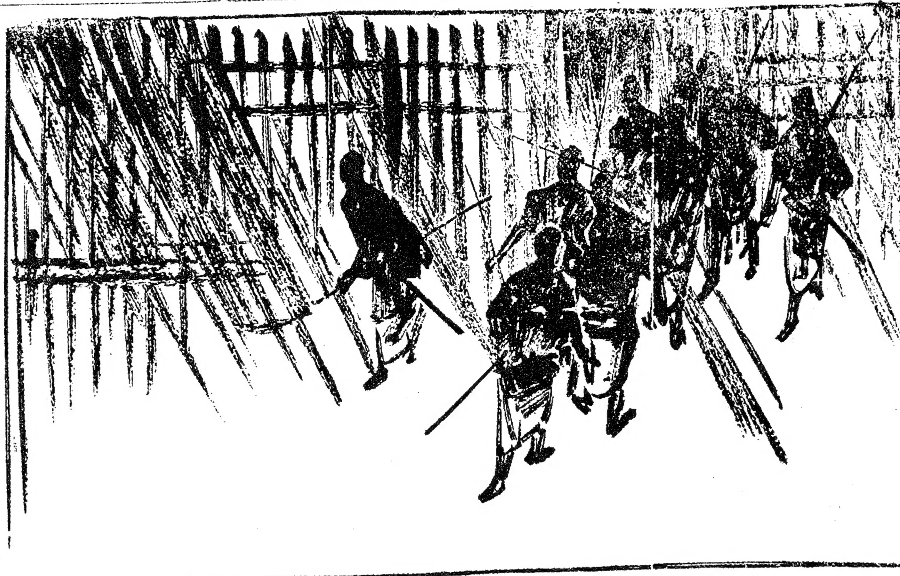
本社編輯局



第四十席

伯山改 神田松鯉口演

さて工藤茂光は爲朝を護衛して途を急ぎ、日を經て駿河と伊豆の境なる千貫と云ふ鄕に着いた、時は恰も十月の上旬、今年は例年に無く寒く、況して此近邊は風烈しく身を斬らるゝ程の寒さ、雨さへ毎日降りて、さしも嚴重に守護せる士卒も怠たると云ふわけではありませんが、長途の疲勞に心緩みて熟睡した、然るに彼の白縫は八人の女共等と只管に路を急ぎまして都に上り、潛かに御曹司のことを問ひまするに、八郎爲朝は工藤茂光が預かつて、流罪の爲めに東國へ下つたと聞きましたから、さらば何は急げッと、夜を日についで急ぎに急ぎ、三河路にて追付きましたけれども、何分にも警護の嚴しい爲めに之れを窺ふ機會がありませぬ、然るに今宵の風雨、折こそ好けれと、白縫、八代、早咲、小櫻、菊尾、小崎、幾代、柴舟、君江の主從九人、黑の頭巾で面部を包み、旅館の塀の際まで來ると、雨は益降り、風は盛んに吹きてなか／＼に物凄く、一寸先きも見わぬ有樣、白縫は却つて便利好しと忍寄りますれば、コハ如何に我れより先きに塀を踰ゆるものがある、八代は何者ならんと足を踏外づして堂と落ちました、落ちた人物の身體の恰好が何うも覺わのあるやうだから、八代は思はず小聲にて「何者なるや」と聲を掛けますれば「オヽ其の聲は八代ならずや」八「オヤ紀平治樣……」と互ひに驚いたのも無理はない、白縫も不思議の再會に聲を低くうして　白「オヽ紀平治にてありつるか、其方は何うして何處へ居りました」紀「これはれ珍らしうござります、手前は都にて一端は我が君にお別れ申しましたが、何分にも氣掛りにて八九日も都の近邊を徘徊なすうちに、八郎爲朝殿も遂に近江にて捕はれたりとの世間の評判、コハ其儘に見過し難く内々にて探索致しますれば、いたはしや我が君には肘の筋を拔かれ給ひて大島へ流罪とのこと、依つて見ぬ隱くれに御伴して何時か奪ひ參らせんと思ひしも何分にも機會が無く、今宵漸く此の雨風を幸ひに忍入らんと存せし所でございまする」と打語るを聞いて白縫は今更ながら、紀平治の誠忠をば涙を流して喜ばれました、紀平治は再び言葉を發し　紀「某、先づ入りて内の樣子を窺ひ候はん」と言ひながらサラ／＼と塀を乘り踰へ、やがて門を開らいて内へと入れました、一同忍びやかに這入つた積りではありまするが番人の爲めに覺られて　番「ヤア／＼皆々出遇ひ候へ、狼藉者にて候ふ」呼ばはりますれば、白縫、紀平治主從十人は是迄なりと、大刀を拔連れて大に叫んで奥の方へと突進する、茂光の郞黨等は此の物音に驚き覺め、スハ、夜討ぞ、弓よ、太刀よと罵合ひ、慌て忙めき走出づるを、此所の物蔭、彼處の狹間に待ち受けて、矢庭に切伏せ薙倒し、右に現はれ左に隱くれ、奮鬪突戰暗さは暗らし、雨も風も盛んにして茂光の家來共、敵の多少を見究め得ず、到底敵はじと思ひけん、七零八落に逃失せたり、今は心易し、御曹司は何處にか在するかとて白縫は紀平治等と共に進み入りて見給ふに、奥まりたる客房の中央に牢輿を[illegible]わらざれば白縫は走[illegible]が君にて在せしか、[illegible]……」牢輿の戸を打毀[illegible]出せば、コハ如何に御曹司と思ひの外見も知らぬ男でありまする、主從十人は今更の如くに驚き呆れ紀平治は彼男の衣襟をかい摑み、刀尖を胸の邊へ突付けて　紀「汝は何者である、御曹司は何處に往かれしぞ、實を申さねば殺してしまうぞ」と、威しますれば、彼の男「申します／＼、申しますから手を緩めて下さりませ」とブル／＼顫ねながら申します　紀「さア此位手を緩めてやるさア言へ／＼、早く申さぬ」かと烈しく責問ひまする



京城新報

合併する韓鐵

無意義にも見ゆる

他日當に南滿鐵道に合併せらる可き運命を有する韓國鐵道は、此れ迄屢々傳へられたるが如く、彌々一昨二十五日樞密院の議を經、鐵道院と合併する事に可決したりと云ふ。余輩は韓國の運輸交通の上に、一線の曙光を認め得たるを喜ぶ。

由來韓國の鐵道は、屢々其の統治主を更ゆ。初は京釜鐵道會社の下にあり、次には韓國鐵道管理局に屬し、亦た亞で統監府鐵道廳に移れり。然れども韓國鐵道が其の屢々統治主を更うる毎に如何なる發達進歩を促し得たるかに就ては、余輩は不幸にして殆ど其の認むべきものあるを聞かず。既に三たび統治主を更ねて、何の發達進歩をも認め得ざるに徴すれば、這般の合併も亦た或は無意義に終はるなきかを疑ふ。余輩は未だ其の官制を見ざるが故に、詳しく論究すると能はずと雖ども、若し此の合併にして唯單に鐵道經營の豫算を分取る點に於て、統監府に屬するよりも、鐵道院に合併する方、好都合なりと云ふが如き、單純なる理由の下に實現せらるゝものとすれば、余輩は其の餘りに得手勝手なるに態かざるを得ず。苟も今度の合併なるものが、充分に鐵道其の者の目的を擧けんとするに在るものならんには、必ずや從來紊亂せる內部を整理すると同時に、從來顧みざりし顧客の不便をも除去せざるべからず。語を換ねて云へば、內過多の冗員を淘汰し、經費の節減を謀り、大に利潤を上ぐるに努むると同時に、外交通運輸の革新を行ひ、運賃を低減し速達を圖り、乘客貨物の安全を保證し以て鐵道の目的を充實せざるべからず若し合併の曉にして、從來の儘を踏襲し、長官以下冗員までも其の儘に引き移り、經費に於ても何等の節減を見ず運賃の不廉、客貨の不安、輸送の遲滯にして、若し從來の如くんば、合併は遂に其れ無意義に終らん。要は唯今回の一段落に當て、內外共に具体的に一大革新を行ふべきにあり。余輩が此の合併を以て韓國の運輸交通の上に、一線の曙光を認めたりと喜ぶ所以は、實に此にあるなり。豈に豫算の分取りを手易くするが故を以てして歡迎するものならんや。余輩亦た韓國鐵道に就ては、一の持論あるも、今は唯合併に就て、希望する所を述ぶるに擱め、暫く合併後の經營振りに見、他日必ず世に發表するの秋あるべし。

東京電報

▲**砲工學校御臨幸** 天皇陛下には本日陸軍砲工學校卒業式へ御臨幸講演を聞召され優等生に對し銀時計を下賜相成りたり(二十六日)

▲**韓儲の中學入學** 韓太子殿下は四十三年四月より學習院中學部へ御入學遊さる可く內定せり

▲**小口無利息の實施** 株式會社第一銀行に於ては五百圓以下の當座預金に對し無利息を實施するに決し發表したるが他の諸銀行も之に倣ふべし(同上)

▲**利子引下の實施** 東京銀行組合は利率は現在の儘とし五百圓以下の當座預金には全然利子を付せざるに決定來月一日より實施すべく今明日中に公表する筈(同上)

▲**大坂稅關の擴張** 大阪稅關は本館擴張費二十五万圓を來期議會に要求し現在の安治川稅關の事務を築港事務所に移轉せしめ取扱上一大變更を計畫せり(同上)

▲**外船貿易の許可** 露國は外國帆船沿岸貿易營業法を發布し千九百十三年一月迄朝鮮國境よりオリガ灣迄外國帆船貿易を許可せり

▲**會社と監査法案** 政府は諸會社の紊亂に顧み獨逸の會社監査制度を採用して法案起草中なるが今期議會に提出さるべし該法實施の上は危險會社は大打擊を受くるも會社の基礎を鞏固ならしめ株主に安堵を與へ少くとも現狀に一大發展を見るべし(同上)

▲**議會と新法律案** 政府は今期議會に市○町村改正案、癩病豫防法案、商法改正案、戶籍法改正案、裁判所管轄區域變更に關する法案等を提出の筈なり(同上)

▲**智利公使館新設** 智利國は今回日本に公使館を新設せり(同上)

▲**本野大使の旅程** 駐露本野大使夫妻は二十四日夜哈爾賓へ到着せる旨外務省へ公電あり(同上)

▲**議會と宗教法案** 宗教法案は今期議會に提出せずと當局者は斷言せり但し部分的宗教に關する法案は此限に非ずと(同上)

▲**日銀券の發行高** 日本銀行券現在の發行高は二億六千七百二万千五百八十五圓なり(同上)

北京電報

▲**清國宮中の暗闘** 西太后葬儀の爲め皇太后と共に東陵に赴かれたる同治帝の妃瑜后貴妃准后貴妃新貴妃等死を期して歸京せず宮中の暗闘倍々盛んなり(廿五日)

歐州電報

▲**秘露國と植民地** 秘露國政府にては「リオデジヤネイロ」に日本模範植民地を新設せり(廿五日)

紐育電報

▲**ロ氏と知事推選** 前大統領ルーズベルト氏を次期の紐育州知事に立たしめんとする運動有力間に起れるが充分に勸誘を試むるに於ては同氏も承諾するに至るべしと一般に信じ居れる者の如し(廿五日)

▲**日米の感情融和** 駐清米國公使クレーン氏失言事件以來日米兩國間に不良なる感情を生ぜるも其後日清協約に密約なるものなく滿洲に於ける機會均等を抵觸する如き事なきを認めたるを以て大統領も一層好感を表し一般融和するに至れり

▲**彈藥買占の否認** 韓國皇帝の叔父に當る李某は目下紐育に在り彼は彈藥を買占め居れりとの說を否認せり(同上)

雜錄

韓政府の國債高

本年度に於ける韓國政府の歲入歲出豫算は經常臨時を合し歲入二千六百三十八万六千六百四十五圓歲出二千六百三十三万九千四百三十圓にして其微弱なる吾が殖民地臺灣にも及ばざるなり此貧弱なる韓國に於ても尙は五千五百万圓の國債ありとは實に驚く可し今其現有國債を內譯すれば左の如し(單位圓)

國庫證券	一,000,000	日本募集
貨幣整理債	三,000,000	第一銀行
金融資金債	一,五00,000	日本政府
第一起業債	五,000,000	興業銀行
第二起業債	一七,九六三,五六〇	同
起業公債	一,000,000	大藏省
日本借入金	一九,六六九,〇八三	日本政府
貨幣整理借越	八,九三三,三五一	第一銀行
國庫金借越	四八四,九七九	同
計	五六,五四九,九七三	

以上の內日本借入金は司法權委任の結果約三百萬圓減額を受くる事となれるを以て結局韓國々債の現在高は五千五百餘萬圓なりとす尙右の內未受取に屬するもの千六百六十餘萬圓ある由

治外法權と韓法官

司法權委任の結果韓國に於ける裁判所は統監府の分課となり統監府司法廳所屬の裁判所は關東都督府法院、臺灣總督府法院の如く行政官府にして其裁判は領事裁判又は從來の理事廳裁判と大差なく唯名稱を裁判所としたるが故に憲法上の司法裁判所の如く思はれることあるのみ從ふて現に任用する韓人法官の如きは憲兵補助員と等しく之れを法官として任用するとも必ずしも不適法にあらざるべし若し夫れ政策として韓國に於ける各國の治外法權を撤去せしめんとする場合には韓國の司法制度が幼稚なりし爲め治外法權を設けたるなれば韓人法官は結局之れを淘汰するにあらざれば各國の信任を得る能はざるべしと

領事團の大異動

京城駐在各國領事に大異動を生じたり即ち約八ケ年間當京城に駐在したる首席領事の白耳義總領事バンカー氏はコロンビア代理公使に榮轉し愈々明廿八日退京赴任すべく其後任には香港駐在領事ブ氏總領事に榮轉近く來任すべし又過日歸國したる英國總領事の後任には神戶駐在領事ボーナー氏が又米國總領事の後任には同神戶駐在領事シドモア氏何れも京城總領事に榮轉近日中來任すべしと

討伐隊と忠魂碑

先年の政變以來各地に暴徒蜂起し之れが討伐の任に當りたる軍隊、憲兵及び警察官にして或は毒手に殪れ或は疫疾に仆れたるもの全羅南道のみにして既に六十四名に及びたる由なるが同道日韓官民は其の職に殉したる戰沒者の忠魂を千代に遺さんとて光州橋畔風光佳絕の丘陵に忠魂碑を建設し來る二十八日を以て之れが除幕式を擧行すると同時に吊魂祭をも執行する筈なりと云ふ而して暴徒討伐に殉職したる者の忠魂碑は蓋し之れを以て嚆矢とすと

一銀券の行使期

第一銀行券既發流通の分に對しては韓國銀行其償却の義務を繼承し引續く事となり尙ほ勅令により韓銀發行券出來迄便宜上未發行分をも流用の認許を與ふる事となりしが純然たる韓銀發行の紙幣は右に要する印刷機械竣成の後ならざるべからず然るに右機械は最も精巧を要し從よて製造に多くの日時を要するが爲め如何に其期を促すも來年若しくは來々春にあらざれば竣工の運に到らざるに就き同行紙幣の流通は一年若しくは一年半の後なるべしと

施政方針と地方費

統監府の施政方針は第一交通機關の完成第二勸業の奬勵なることは屢々報導したる處なるが地方費豫算も編成も此の方針に基く由にて土木事業を主とし次ぎに直接効果ある勸業、教育の補助衞生上の施設、罹災救助、必要止む可からざる吏員の設置等の順序なりと去れど是れとても各道の狀況に照らし第一教育を奬勵すべき處もあれば勸業を先きとせざる可らざる處もある次第にて右は大体の豫算編成方針にして要は爲政者の手心にあるは勿論なり

●**課税漁具範圍決定** 漁業稅法第二條第三號乃至第五號に依る漁具の種別は其範圍漠然として課稅の標準頗る曖昧なるものあり之が爲めに實地施行上疑義紛からざるを以て農商工部にては度支部と協議の結果其標準を左の通り決定し此旨各理事廳及び地方廳に通知したり

一、第三號第一種許可漁業の漁具小地曳網類は網の全長(身網荒手網を合したる浮子附の長)百五十尋以下のものとす

二、第四號第二種許可漁業の漁具小打瀨網は肩幅(船の幅員最廣部分)七尺未滿の漁船に於て使用するものとす

三、第五號第三種許可漁業の漁具小手繰網類は二人以下乘り組みたる漁船に於て使用するものとす

●**船舶法と日本船主** 目下度支部に於いて制定中なる船舶法は各關係局課の意見を徵し時勢に適合せしむべき方針なるが度支部案によれば韓國に在る日本船舶は其適用を受くる能はず隨つて船主は日本に本店を置き日本の國籍を獲得せざるべからざる不便ありしも農商工部にては是れ日本人の航運經營上面白からざる結果を來す可きを以て日本の船舶にも均しく適用する事に改刪したる由然れば船主は韓國に店舖を設け其國籍の下に經營し得べきを以て頗る便利なりと云へり

●**金融機關一覽編纂** 韓國銀行の設立は韓國經濟史上一新元を劃したるものなれば度支部理財局に於ては是を機とし財政整理以前より今日に到る迄での日韓兩國各種金融機關の設立、動機、理由、沿革、現狀等を詳記し一般の參考に資せんが爲明年早々委員を設け右編纂に着手すべき計畫ありとの事なるが右は頗る尨大なる大部のものとて少くも半ケ年を要すべしと尙ほ印刷部數は約五百部との豫定なれども希望者の都合も測り便宜增加する筈

●**理財課新設と豫算** 地方に於ける農工銀行、金融組合の監督及び經濟事情の調査は財務監督局經理課の所屬なるも金融組合の增設及び經濟事情の複雜となるに從ひ經理課より之れを分離する必要あるを以て度支部にては明年より全國六箇所の財務監督局に理財課を新設して專務の事務官を置き金融の監督及び經濟狀況の調査をなさしむる計畫にて其計費として明年度豫算に四萬八千圓を計上したりと

●**白總領事統監訪問** 別項記載の如く京城駐在白耳義總領事バンカー氏は公使に榮轉に付き今二十七日午前九時新任總領事グレピヤー氏帶同曾禰統監に接見する筈尙はバンカー氏は二十八日午前八時三十分南大門出發仁川に赴き其れより大連に渡り西比利亞鐵道に依りて歸國する筈なりと

●**釜山商況の比較表** 本年十月中旬より十一月中旬迄の釜山商況の比較表は左の如し

	本月中平均	前年同期
中白米	八,五七〇	一一,七一〇
玄米	八,〇四〇	一〇,七三〇
大豆	五,〇六〇	五,九三〇
小豆	七,〇八〇	七,四二〇
大麥	二,八六〇	三,六一〇
小麥	六,八九〇	七,四三〇

●**韓國銀行紙幣種類** 當局に於ては同種類を一圓、五圓、十圓の三種となすべき豫定なるが同百圓の如きは今日の國情に照して樣要を認めざるに就き未だ其詮議に及ばず尙は必其式意匠に就きても既に成案を有す由

鐵橋工事の醜聞

不日正に竣工を告げんとする京義線臨津江鐵橋架設工事に關し鐵道廳長官大屋權平氏と工事請負者との間に請託の形跡存する事の發覺したるやにて物議正に起らんとすとの報あり

●**司法廳長新任披露** 倉富司法廳長官は廿六日午後五時より花月樓に盛大なる新任披露宴を張りたるが重なる參會者は首相以下各部大臣石塚長官、各長官次官、通信管理局長各高等官五十餘名にして頗る盛會也し

●**內部豫算と新事業** 內部來年度豫算は交通機關の完備好果あり衞生上の施設土木勸業罹災救助費學校補助道內に於ける道路改修其他必要缺く可らざる地方吏員設置等なりと

●**地方行政の研究會** 沼澤、澤田兩道書記官の入京を期とし澤田地方局長主催にて廿六日午後五時より京城ホテルに於て地方行政研究會例會を開き兩氏の講筵もありたりと

●**民團議員の協議會** 京城民長候補銓衡委員は委員會の結果報告の爲め二十七日午後五時より民團役所樓上に民團議員協議會開催に決す

●**地方行政の研究會** 廿六日午後四時より內部に於て澤田地方局長主催となり各關係課長滯京中の書記官を會し地方行政研究會を開く由

●**謝罪使派遣協議會** 伊藤公に對する謝罪使派遣協議會は一昨二十五日中部某所に於て開催したるが結局要領を得ずして散會したりと

●**米國實業家の觀光** ボストン商業會議所員は廿六日菱田統監府囑託の案內にて各所を觀覽せりと

●**關野博士一行出發** 關野工學博士谷井文學士栗山工學士の一行は二十六日出發南韓視察の途に就く

●**國是遊說團演說會** 今二十七日午後より圓覺社に於て國是遊說團政談演說會を開催すべしと云ふ

民長候補の推選

(松永詮衡委員の談)

曩に民團議員協議會に於て民長候補詮衡委員に撰ばれたる和田、古城、松永、山口、秋吉の五民團議員は一昨廿五日和田民團議長宅に集合し民長候補者詮衡委員會を開けり今此が結果に就き松永委員が往訪の記者に對し語れる談話要領を記すれば曰く曩に民團協議會に於て同會の內容は秘密に附するとの約ありし爲め爾來候補者問題に就て世間に誤謬を傳へられたるは吾人の遺憾とする所なるが既に今日となりては別に秘すべき必要を認めざるを以て事の經過を語らんに抑々協議會に於ける議員多數の意見が成べく京城在籍者中より民長を擧げたしとの希望なりしを以て吾々詮衡委員に於ても其方針にて詮衡を進めたるが同夜の協議會にて數へ上げたる候補者は和田、山口、古城、松下前代議士其他數氏ありしが和田、山口兩氏は種々の事情より固辭して受けず世間にては山口氏が自ら民長の野心ありて運動せるなど傳ふるものありしも同氏は現に三會社の重役にて到底民長の激職に就くを好まず寧ろ菊池議長氏を推撰したる一人なりき如此有樣にて協議の結果は**古城管堂氏**を**推選**する事に**滿場一致**にて**決定**したり依つて廿七日午後五時より民團役所樓上に民團議員協議會を開き上述の經過を委曲報告する事に確定し散會したり云々(電通)

●**三國史記の出版** 朝鮮雜誌社發起の朝鮮古書刊行會に於ては豫告の通り第一回(十月分)發行として三國史記を發行されたり原本十冊全部菊版七百頁以上に收められ四號活字にして句讀を付せられ最も讀者に便利なり第二回即ち十一月分の發行物は大東野乘にて原本七十二冊より成る大部の珍本にして朝鮮の野史類を大成せるものなり數百圓を投ずるとも容易に手に入れ難き珍書なり朝鮮書籍の散逸して文獻に乏しき今日此の種の刊行物着々として發行さるゝは朝鮮文運の爲め最も賀すべきことゝなり豫約費は毎月一冊三圓五十錢なるも一冊賣は五圓なり豫約締切は本月中との事發行所は京城本町九丁目朝鮮雜誌社內朝鮮古書刊行會

●**諺字新聞の押收** 桑港にて發行する新韓民報第百五十六號は治安妨害と認められ廿六日內部大臣より押收さる

●**木內次官の旅程** 北韓沿岸視察の途に在る木內農商工部次官は二十五日鏡城を發し廿六日淸津へ到着したる由

●**藤原課長の出張** 度支部銀行課長藤原正文氏は太田農工銀行建築落成式臨席の爲め二十七日朝出發せらるゝ由

●**佐々木藤太郎氏** 過般來東京出張中なりし度支部書記官佐々木藤太郎氏は昨夜南大門着列車にて歸任したり

●**今西通譯の出發** 憲兵京城分隊通譯今西市太郎氏は公州裁判所通譯に任命されしを以て來る二十九日赴任の筈

●**南山本願寺說敎** 南山本願寺に於ては今廿七日午後七時半より說敎あり

●**白耳義領事入京** フクポーミアー氏は廿五日午前八時四十五分入京せり

●**カ稅關吏の入京** 安東縣稅關吏カタジー氏廿五日午後十時四十分入京す

●**小梁川署長歸任** 忠州警察署長警視小梁川猛熊氏は廿五日出發歸任せり

●**清國武官の退京** 清國天津總參謀陸軍都統舒清阿氏廿五日新義州へ向ふ

龍山通信

(廿六日支局報)

▲**電車の連絡計畫** 日韓瓦斯電氣會社が龍山新市街に電車線路を敷設するの計畫を立て目下當該官署に對し道路使用の請願中なる由は曩に報道したり而して之れと同時に吾人は新舊市街を連絡する線路の一日も早く敷設されんことを希望し置きしが今會社に就て聞く處に依れば件の線路は鐵道廳が開通したる地下道に敷設するにあらざれば他に同樣の地下道を開鑿するか然なくば汽車線路を橫切りて危險を避くべく相當の設備を爲すを要し尠からざる經費を投ぜざるべからざる龍山居留民に取りては實に必要なる線路なるを以て會社に於ては此際單に損益上より打算すべきにあらずとし之れが敷設計畫を爲し現に鐵道廳に對して交涉中なりと

▲**瓦斯需給の狀況** 京龍間に於ける瓦斯需給の狀況を聞くに本月十五日迄の申込件數約一千二百此內取着工事を了りて現に瓦斯を供給しつゝあるもの四百四十軒一千五百火口にして瓦斯量一晝夜平均三萬三千立方尺光用入熱用二割の割合なり尙は工事中の分も本年中には竣成の見込みなるが目下龍山桃山遊廓及び陸軍官舍の引込工事を急ぎつゝありと因に兵營には瓦斯燈を用ゐず電燈を架設することゝなれりと

▲**學童動物園參觀** 昨紙所報の如く今二十七日は龍山小學校開校第四回紀念日に相當するを以て此日休校して祝賀の式を擧げ式後校長職員等生徒を引率して昌德宮の動物園を參觀すべし

▲**柴田主計の出發** 曩に陸軍省經理局より駐韓軍に派遣されし柴田一等主計は龍山、平壤、新義州等に於ける經理事務視察を了へ昨日出發歸任の途に就きしが途中南韓駐屯諸隊を視察する筈

●**罹災救助と地方費** 地方罹災民救助は悉皆國庫より救助費を支給し來りしが斯くては徒に惰民を作る弊なしとせず之れ法の精神にあ……助費目を編入し支給することゝなる筈なるが地方費中より支給し能はざる救助費は國庫より救濟する事となるべし

●**邦人と經營の殖林** ……俟ざる所なれど未だ從事せる者なく當局者より種々の手段を以て勸告したる結果邦人の經營に係る部分林の出願斷く多く目下許可を得たるもの十五六箇……

●**中央農會全北支部** 全北群山に韓國中央農會全北西部支會を設置するに就て來る廿八日同地普通學校に於て創立總會を開催する由なる……め來春盛大なる發會式を擧行する筈

●**免許漁業の審査會** 農商工部審査會に於て……業の處分に付き審査會を開きて審査會の意見を決定する由

●**農產物の收穫比較** ……に比すれば著しき差額を呈し前途大に改良發達の見込みあるものゝ如し

韓國收穫高 日本收穫高 差額

九九四 一·一九〇 一九六

●**財務主事の入京** 平安北道主事財務藤森嶽氏は廿五日入京藤屋旅館へ投宿

●……地方罹災民救助は悉皆國庫より救助費を支給し來りしが斯くては徒に惰民を作る弊害なしとせず之れ法の精神にあらざれば內部は來年度地方費豫算に救助費を組入し……なるが地方費中より支出し能はざる救助費は國庫より救濟する事となるべし

●邦人と經營の殖林 韓國に於ける殖林の有望なる事は言を……結果邦人の經營に係る部分林の出願……所に達したるが何も來春早々着手の筈

●……全北群山に韓國中央農會全北西部支會を設置するに就て來る廿八日同地普……學校に於て創立總會を開催する由なるが當日は豫算決定、役員選舉の外に……

●發許漁業の審査會 農商工部審査會に於ては廿五日發許漁業の處分に付き審査會を開きしが……したるが廿七日更に第二回審査會を……

●農產物の收入比較 農商工部の調査に係る農業統計に依れば米麥大豆の一萬歩に對する平均收穫高は左の如くにして是を日本の收穫高……改良發達の見込みあるものゝ如し

	韓國收穫高	日本收穫高	差額
米	九、三〇	一七、三〇〇	[illegible]
麥	九、九四	一一、九〇〇	[illegible]
大豆	五、四七	七、一〇〇	[illegible]

●藤森滋氏は廿五日入京藤屋旅館へ投宿

八千代の弗箱(一)

▲秋田と横山と鬼
▲笑子拍子の手切金

霜枯れの心寂しき仁川花柳界に近頃移し植へられた名花一輪、生れは慥か長崎で七ツ八ツの頃ひより天津にて人となり天晴れ一本立の藝妓として伎倆も十人並み、殊に露を含みし優しき風姿は痛くも男を惱殺して今迄で家倉を傾け盡せし鼻下長連も濱の眞砂の數ほどある由なるが遂ひ先き程仁川淺間に八千代と銘打つて現はれてからも其の美妙なる詩吟と姿床しき風容と何處となく初產な風の見ゆるに現を拔かして夜となく晝となく通ひ詰むる殿方の數はザツト三十六人餘あり其内にても大山師の秋田前助役の横山仁川稅關の鬼の三氏は夫れ〳〵の誤熱心にて一夜見ずば夢結び兼ぬると云ふ逆上方にて何れ劣らぬ戀の鞘當は珍無類のもの有つて存するが玆に秋田は粹樣先刻御承知の如く鱗樓に笑子とて未だ二八か二九からぬ舞妓上りの可愛い思い妓ありしも前記八千代の姿を一眼見しよりは寢ても覺めても忘られずいつぞやの宴會の砌り夫れとなく意の程を打ち明くれば此方は名にし負ふ仁川粹人間の大立物金の廻りも良いとて聞けば弗旦としても滿更ら見込のない事もあるまじとウンとばかりに諾なひて紅閨の夢結びてし後は渠れ秋田の八千代を思ふの切なき情は何に譬へ方なく足繁く通ひ詰め笑子の方には自然足遠くなりしにぞ笑子は未だ秋ならぬに秋風の吹くはテモ不思議な事よと內々探つて見れば前記の顚末逐一知れたるより今は矢も楯も堪らず秋田に向ひて嚴しき抗議を申込みたりしかば知らぬ顏も出來ず右秋田は手切金として數百圓を笑子に與へ其れよりは八千代に乘り替へての放蕩三昧に霜枯れの仁川花柳界を賑はし居れりとかや其他鬼さんとて名前はエライ恐さうなれ共其心根はポンチの樣に優しい一郎さんが他愛もない惚氣かた等面白き節あれ共开は後日の御娛にこそ

出刃を持ちて亂入す

▲金の無心に應せぬとて

山口縣平民當時京城南大門通櫻家旅館止宿ボーイ賀谷次郎(二四)は一昨廿五日午後七時半頃南山町四丁目八番戸料理屋綠事宮本政次郎方へ登樓して酒肴を命じ尚同樓の名義にて藝妓一名を聘びて酒興を割けさせ大盡風を吹かし飲めや唄への大陽氣に浮かれたるを綠樓にては這の不景氣の節よき客なりと下にも置かず非常に款待せしが其内時刻も十時頃となりたれば一先づ今迄の勘定六圓六十八錢の支拂を請求せしに同人は初めの陽氣は怎處へやら靑菜に鹽をかけし如くなりしを樓主は或は例の無錢飲食者には非ず歟と酒肴の注文を拒絶して勘定を請求せしに同人は眞靑になつて今此處には金は持合せなけれども南大門迄行けば早速支拂ふとのことに樓主も仕方なく同人と同道して南大門驛に到りたるに次郎は驛構内の喫茶店に入り麥酒を命じて飲みつゝ暫て次郎が仁川倶樂部に雇はれ居たる時の朋友にて今西鎰次郎(二四)といふものゝ午後十一時廿分着終列車にて下車するを待受けて前記の事情を打明けて金を貸して呉れとの相談に鎰次郎は目下京城ホテルのボーイに傭はれ京義線列車厨房室に乘込みて現に同夜も新義州より歸着せし際なれば金の持合せなく去りとて京城ホテルにも昨今傭はれたるものなれば金の調達六ケ敷けれども朋友の好なれば出來得だけ心配して見んとて其儘立別れたるを次郎は鎰次郎が金は所持して居ても体のよい言葉で此場を逃れたるものと邪推を廻し直ちに南大門通りの金物屋で出刃庖丁一個を買ひ求め惡魔の如く兇相を變へて韋駄天走りに次郎の跡を追ひたるも次郎は既にホテルへ歸りたる后なりしかば遂にホテルに至り次郎に面會を強請したるも同人が深夜に酒氣を帶びゐたるを訝りて帳場の某が鎰次郎は不在なる旨を答へたるに同人は益々焦慮て此時隠し持ちたる出刃庖丁を右手に高く振翳して猛り狂ひ暴行を働き初めたるを主人の命に依り雇人が此旨南部署に急訴せしかば宿直の警官は時を移さず現場に出張して亂暴中の次郎を組伏せ捕縄を打ちて本署に引致し桐原署長に電話を以て急報したれば署長は深夜にも關はらず前記鎰次郎及綠の主人等を召喚して嚴重に取調べを爲し次郎は其儘收監され他は悉く放還したりとか世には困つた奴もあるものかな

▲電車の内(三)

颼と横に拂ふ風の冷さに、車室は滿員、襤褸兒押の身動きもならぬ体、處へ飛乘つた洋裝のハイカラヨボ、車室の入口に立集ふて、羨しさうに寒さうに、室内を覗けるヨボ等を、同じ畑に生へたといふさへ厭しげにベケヨ〳〵と尖り聲の、氣づかぬ奴には肱も喫れて、ズツと押込むだがサテ腰を下さう空席は無い、アイゴーとやつた、自然に發たる響音の、此場合、餘りの相應しさに、乘合はドツト笑ふ、疾しや遅し、チン〳〵と車掌が合圖に、電車は轟と軌り出す、ハイカラは、ヨロ〳〵として、危くも踏留まる、乘合は復たドツト笑ふ、氣味好しとや室外のヨボ等がアイゴーと囃して、ドツト笑ふ、ハイカラは堪らず、すりぬけて、室外に出る、首を縮めて、アイゴー寒い！

宮内府典膳司間の葛藤

▲ヨボ同志の勢力爭ひ

宮内府典膳司主膳課長安淳煥と呼ぶは就任以來御膳供進の上に一方ならず心を碎き舊慣を襲習せる不規則千萬なる從來の御膳供進を廢せんものと今春其筋の許可を得て數ケ月間東京に滯在し宮内省の主膳課へ見習として出頭し調理万端殘りなく研究の上歸京し十余箇條の改良案を出し宮内大臣及び次官の前にて種々詮議の末孰れも裁可を得成蹟頗る見るべきものありしがこゝに典膳司長に金玉鉉と云ふがあり何事にまれ舊慣を墨守して改革の志なく已が腹心の御用商人なぞと結托して官名を利用して私腹のみ肥し居たるが安淳煥が歸京以來何かと反對の行動を執り剩へ成蹟の佳良なるを讃めらるゝを見て業を煮やし折こそあらば此の怨みを晴すべしと待構へ居たるに數日前膳監に一人の缺員を生じたれば勢力扶植に思を焦せる金の事とて己が一族より膳監を採用せんと樣々に陰密に運動をなし居たるが不幸にして候補者三名に對し平常憎しと思ひ居れる安が試驗の上任命する事となり結局金の推薦したる候補者は見事落第の憂目を見たれば金の安に對する怨憤は愈々火の手を高め己れやれと數囲さ込んで典務課長趙東源を同腹に說きまるめ正に採用の辭令を認めんとせる刹那之を取消さしめんと鬪りしより爰に端なくも金と安との大論判となりウリが茄子が南瓜がと眼を引剝ひてのいがみ合ひに居並ぶ人々唯呆氣に取られて詮術とてもなかりしが結局膳監の及第者を採用せざる事となり今以て紛擾の最中也と消息通の噂のまゝを

伊公國葬の寫眞

▲廿七日より壽座にて

壽町壽座にては今廿七日よりエム、パテー活動大寫眞を興行の筈なるが同寫眞の大呼物は本月四日日比谷公園に於て營まれたる故伊藤公爵國葬の實況を寫したる者にて頗る長尺の者なりと尚ほ此外新演劇「大和魂」舊劇「鈴ケ森」は市川猿入の幡隨院長兵衛、同右團治の平井權八及「切られ與三」其外大阪大火、江濃大地震の慘狀外長尺物數拾種と餘興には電氣應用美人のモデルとして旭滑子が胡蝶舞を演ずる辯士は何れも聲色を以て說明する由なれば定めて觀物なるべし

●脱走囚徒の逮捕

忠淸南道の出身李鳳來と云ふは暴徒の群に投じ良民を苦しめ居たる中捕縛され一昨年十月頃平理院に於て十年の流刑を宣告され智島に移されたるに今春同島を脱走し流れ〳〵て京城に入り込み相變らず良らぬ事のみ爲し居たるを京城分隊の探知する所となり去る十二日難なく逮捕されたるが昨日取調を結了し地方裁判所へ送致されたり

●無錢飲食の行損

福岡縣生れ當時京城北米倉町飲食店琵琶湖亭同居小畑政治(三〇)は去る廿五日午前一時四十分頃北米倉町銀水亭に揚り込み酒肴を命じたるも亭主が政治の懷中無一文なるを看破して體よく拒絶したるを同人は大に怒り大聲を發して亂暴を働きて始末に了ねざるより巡廻中の警官に引渡したり

時事俳評

ちはる

△韓鐵合併の可決
落ち合ふた水たまりなり　薄氷

△民長問題の紛擾
はね炭やあたら口説の折も折

△ヨボ司法官の金筋
水滴や金筋の泣く　幼稚園

△南班處分の內議
淋びしさに落葉はくらし　寺男

△花月房江の氣焰
漁火の危險呼ばはる千鳥かな

●車夫の刀物三昧

旭町一丁目別府組人力車挽子福賀滑吉(三四)は一昨日午後九時頃同業の山口滑一郎(三〇)と口論の結果同駐車場にて同人の爲め強か殴打せられたるを無念に思ひ廿六日午前一時頃短刀を以て滑一郎に斬付けんとせし騷ぎに訴に接し名塚巡査滑吉を南部署に檢束して取調中

●歌舞伎座の新奇術

▲重なる奇術の差替へ

旭町歌舞伎座に開演中の松旭齋小天一は初日以來非常の好人氣なるが本日よりは從來の種目の上に更に左の新奇術を差替ゆる由

△天女の羽衣△ボックス忍の箱入り
△貴重品洞窖の術外數種

●新町だより

一昨夜新町遊客の登樓客は百九人消費額五百廿七圓十五錢

吉凶録

本町五丁目 三一舘判斷

十一月廿七日舊十月十五日一白赤口辛卯さだん△一白●盜害水厄水損防ぐべし旅行轉住凶△二黑●不成効の日なり新事改易凶集團結合婚姻凶△三碧●紛糾事件解決妙を得たる日なり遠方に對し取組事若くは取引事良好△四綠●破財散財事あり中絶離間の兆ありとす其外吉△五黃●自尊倨傲より誤りあり尚紛爭過失防ぐべし△六白●義に勇み情に熱して損害迷惑を蒙ることあり改築土工治金には吉其外凶△七赤●新事及復雜の事は見合すべし盜難防ぐべし△八白●發案の日なり取引貸借賣買相談等面白からず尚盜害懸念の事△九紫●沈滯の日新事及改易の事凶農業林業には吉

◀平民文庫▶

▲消日仁川歌舞伎座に催された朝鮮新聞社の演藝會は非常の盛會で觀衆約千七百と註せられた相な仁川は興行物は此の不景氣で入りがないとか何んとか云つても只となれば此の通りである△夫れは先づ夫れとして同一座の忠臣藏の劇評は信夫理事官の手に成つたものだ相な△ト云つて別段拙者驚いたのではない、決して驚かない、誰れが驚くものか、何んとなれば乃父恕軒翁が忠臣藏をれ十八番の語り物とせられて居るのを知つてるもの(風聞子)▲ケース生に申す、人が食つて居るのを見ると甘そうだが買つて喰つて見ると美味くない是には六ケ敷理論もあらうが一言にて云へば『幽靈の性体見たり枯尾花』だ小僧生の言は吾れ採らず(はの字)▲ト來でなすつたな、僕は何處までも隣りの肴を大きいと見るやしい根性からだと思ふが、一つは斯う云ふ理屈もある、己れが酒好きであるのに傍人の下戸がロツキ面白う菓子を食う其の食いつ振りに引き入れられて食て試る口に合はない、其處で美味くないと云ふのもあらう、が兎に角食意地が汚ないからだらう(小僧)▲かものも云はずに斬り付けるとは物騷千萬だ(公洞人)▲魚友痴史さんは此の支那人に斬られた疑支那人がおつたど頃何うなされたのですか一寸も其姿を見掛け申しませんが(心配生)▲私はれ二十五日午後二時頃漢城病院へ參りましたら應接室にシヤツも何も血に塗れた男の方が寐て居られました聞けば支那人に斬られたと云ふ方なのだ相で手續きが済まぬとかで抛り出してあるのださうだとかシミ〳〵お痛はしいと思ひました(岡惚女)▲旭町の監獄跡を市場にす

▲無料紹介欄▼

人事部

●被雇たし 年三十五普通教育あるもの鑛山事業に多大の趣味を有す如何なる危險も不厭 姓名在社(四八三)

●被雇度 年三十三才貨物取扱及稅關手續に經驗あり英語を解す商店又は會社に雇れたし 氏名在社(四八五)

●女中入用 十五歲以上四十歲以下の上品なる女入用給料望次第保證人を要す(家庭小人數) 龍山老松町三四兒玉

●被雇度 年廿五寫眞術並に測量等に經驗有り 氏名在社(四八七)

物件部

●貸家 南山町二丁目二階建十疊と三疊と廻縁二階六疊二間廻椽井戸物置湯取付家賃面談 氏名在社(四七八)

●貸家 北部齊洞廿九統四に安價の貸家韓家數間あり御希望の方は同所の內見に就き問合せあれ

●古新聞 六月後の大阪朝日、大阪每日、京城日報七月後の朝鮮新報取揃原價の半額位にて讓受たし 氏名在社

廣告

龍山若松町
島崎鐵工場
電話四四一番